

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092400015		
法人名	有限会社 平成		
事業所名	グループホーム 道		
所在地	長野県上伊那郡飯島町田切161-52		
自己評価作成日	平成22年1月12日	評価結果市町村受理日	平成22年6月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092400015&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木の温もりを感じる事ができる建物です。
施設の内外に花や野菜を作り、四季折々の季節感を感じていただけるよう取り組んでいる。
いつも笑顔で暮らしていただけるよう職員は「和」を心がけています。
地域の方、外来者の方々が気楽に立ち寄りいただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれ、木のぬくもりを感じる建物は、内外共にきれいに整備され、広い庭や近くに見える山々、また室内にさりげなく飾られている花や写真などから、季節を肌で感じることができる。利用者の笑顔やおだやかな表情から、輪、和、話を大切にしている職員の質の高さがうかがえる。平屋建ての東西2ユニットのホームは、利用者同士の行き来もおこなわれており、和やかである。利用者も一緒になって準備した昼食やお茶の時間には、職員が利用者一人ひとりに声をかけ、明るく会話している風景は微笑ましい。近隣の方々との付き合いも自然体であり、交流が日々の暮らしの中でおこなわれている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(西)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(東)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくりあげている、施設内に提示している。 職員に毎月確認している。	「利用者の皆様と共にくらしをつくりあげます。地域の中で地域の皆様とくらしませす。輪、和、話を大切にします。」を独自の理念として掲げ、施設内に複数掲示され実践につなげている。また毎月1回理念を職員会で確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭や運動会に参加し地元の人々との交流に努めている。近状の方々と挨拶や会話するように努めている。近隣の方々より花や野菜果物と頂く機会があり、寄っていただき一緒にお茶を飲んで話しをしている。	職員は近隣の方々と積極的に接し、会話するよう心がけているので、近隣の方々は野菜や花など持参して訪問してくれる。その際には中に上がってもらい利用者、職員と一緒に お茶を飲みながら交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施していない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出された意見は職員に伝えサービス向上にむけ努力している。	3ヶ月に1回開催と定めている。関係者が全員出席するための調整が難しい時もある。出された意見をもとに職員会などで検討し、サービスの向上にむけ努力している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に出向き担当者と面談し施設での状態を常に報告し助言を受けるように努力している。	管理者や介護支援専門員が、役場に出向いて報告を行ったり助言を受けたりしている。	市町村からの訪問の機会が少ないので、今後は、利用者の暮らしぶりなどを見にきてもらったり利用者との交流が図れるよう、積極的な働きかけを期待します。

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提とし、拘束を必要とする利用者については職員と家族との話し合いで最小限の拘束で安全が保てるようにしている。月1回の拘束解除に向けて検討している。	身体拘束をしないことを共通認識とし、家族とも話し合うようにしている。夜間の防犯以外は施錠もおこなっていない。近隣からも協力をえられており、見守りや連絡してもらえる関係が築かれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で虐待について話し合いを持ち虐待を見過ごすことのないようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し他の職員に情報提供をし情報の共有ができるように職員会議で報告をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明をし、意見を聞き理解納得を得た上でサービス提供をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に話していただける様に家族が面会の際、意見を言っていたけように努めている。家族会を設置し意見交換や提案を聞き反映させている。	昨年家族会を発足させ意見や要望などを出してもらっている。また家族が面会に来た際に意見や提案を出してもらえよう職員が家族と面談するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日々のミーティング時に話し合いを設け反映できるように努めている。	毎月第4月曜日に職員会を開催し、意見を出し合っている。日々のミーティングにおいても話し合い運営に反映できるよう努めている。	

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各自がどの様になりたいか、ということ聞きその為の目標を作る。個人の労働時間や賃金などに対する要望を可能なだけ聞く。資格を取得すれば賃金が上がる事を伝えている。		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修会に全員が出席するように予定を組み行っている。また、日々の業務の中で出来ない事や苦手なことを聞き、ミーティングや個別相談で目標を作るようにしている。		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	上伊那圏域グループホーム研修会に参加し勉強会を行っている。(他施設への研修又は他施設からの研修受け入れ)訪問活動(傾聴ボランティア等)又は他のグループホームと交流し質の向上に向け努力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	面接時に本人から良く聴き受け止めている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族から相談があれば良く聴き、受け止めるよう努力している。		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人・家族の意見を聞き、本人が必要としている支援を把握しサービスについて説明している。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしなが、人生の先輩である利用者から常に学ばせていただいている という気持ちを大切に努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時や電話連絡時に利用者と支えていけるよう、情報交換・連絡を密にして家族との関係を大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・友人、知人など馴染みの方が面会時、気軽に来ていただき、お茶のみ話しをして行かれる様な雰囲気作りに努めている。	知人、友人などが気軽に面会ができるよう玄関の雰囲気づくりや職員の対応などに気を配っている。面会の際は利用者の部屋でお茶を飲んでもらうなど配慮している。行きつけの美容院に出向いたり、訪問してもらったりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが関わりをもてる様、お互いを尊重し支える様に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もいつでも相談や施設にも遊びに来てくださいと話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時に生活歴や情報提供書を元に、本人・家族の希望を聞いてケア計画書を作成している。会話や行動の中から本人の意向を把握していく事に努めている。	利用者の生活歴や情報提供書をもとにケア計画を作成し、日々の本人の会話や行動などから変化を把握し、家族の要望なども聞きながら検討している。	

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に、本人・家族から情報を得る、ケアマネより今迄の経過等を聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴の中から、その人個人の有する力を把握するように努めている。個々の現状を認識し職員全体で把握できるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合い現状を受け止め今迄のサービスを参考にしながら、本人の希望や出来る事を入れた介護計画を作成している。	介護計画は現状を把握し、本人、家族の意向を聞きながらカンファレンスで出された職員それぞれの意見を反映させ作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に応じた見直しを行っている、サービスに対応できない変化が生じた場合は、家族・本人と話し合いながら見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望に対して病院等への送迎、付き添いなど行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域の方々の協力を得て支援している。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人の状態を家族に説明し主治医と相談しながら家族の意見を聞いて適切な医療を受けられるようにしている。協力医療機関(精神科、歯科、リハビリ(接骨医院)診察が受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の受診は家族と連携し受診支援をおこなっている。協力医療機関から毎月1回往診がある。精神科、歯科、内科、リハビリなどが適切に受診できるよう支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設看護職員が利用者の健康管理・医療機関と連携している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院と連絡を取り合い、退院後にサービスが変化する事を考慮し家族と共に話し合い相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に家族の考え方を聞いている、終末期の在り方を家族と話し合いながら職員全体で共有している。家族と相談しながら出来る事出来ない事と説明し家族と協力しながら状態の変化に備えている。</p>	<p>基本的には終末期対応を行いたい方針であり、開設後2名の看取りをおこなった。入所時に家族の意向を聞いているが、生活している中で体調に変化が見られた場合は再度家族と話したり、かかりつけ医から家族に説明してもらっている。</p>	<p>協力医との連携もよく取れているため終末期対応は事業所の方針を定め今後の重度化に対応されることを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当等の訓練を行っている。職員間にて話し合いや看護師より基本的指導を受けようとしている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>運営推進会議にて自治会の方に災害時の協力体制を依頼する。防災訓練・消火訓練の実施。</p>	<p>昨年の運営推進会議で役場から避難訓練は年2回実施するよう指摘を受けたので今年度は2回実施した。地域の防災訓練にも参加し協力を得られた。</p>	<p>職員全員で避難訓練が行われている。また地域からも協力を得られているが今後も引き続き協力を仰ぐと共に夜間想定訓練を行うなどして避難方法を全職員が身につけることを期待します。</p>

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大事にし、その時々にあった対応をしている。個人情報の秘密厳守を職員会等で徹底している。	場面場面でプライバシーを守るようにしている。また、対応時に目に付いたことはその都度管理者が職員にそっと注意をしている。	プライバシーについては理解されているが、職員全員に徹底するためにマニュアル作成が望まれ、研修の実施に期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を大切にし、「はい、いいえ」とならない言葉かけに気を配っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課にとらわれる事無く、本人のペースに合わせた支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、本人・家族の希望があれば希望する店に送迎している。職員も散髪している。本人の好みの洋服を選んできていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備・盛り付け・片付けをしている、献立については食べたい物をお聞きし用意する。買い物と一緒にいたり、外食の機会を持ち好きな物を注文していただく。	食事の準備、盛り付け、片付けは職員と利用者が一緒におこなっている。また献立を一緒に考えてもらったり、好みや味付けを反映させている。また外食も計画的に実施している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取又量を確認し、摂取量の少ない方には代替品や補助食品を提供している。3回の食事時と2回のお茶時には水分している。牛乳・ヤクルト等でも好みで摂取している。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き(入れ歯を含む)をしている、入れ歯の消毒は每晚している。歯科医師の往診依頼。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時のトイレ・ポータブルへの声かけ誘導をし気持ちよく排泄出来る様支援している。失禁は素早く衣類交換し汚れた衣類で過ごすことのないようにしている。	一人ひとりに合わせてトイレやポータブルトイレへの声かけ誘導を行い気持ちよく排泄できるよう支援をしている。また汚れ物はすばやく衣類交換し清潔保持につとめている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩に出かけ体を動かす様にしている。食事には野菜を多く使用し3食とも汁物をつけている、又水分・果物・乳製品も多く摂るように心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添った入浴を支援している。	本人の希望に併せて入浴している。中には毎日入浴されている利用者もいる。本人の介護度にあわせた支援体制を組み安全に気持ちよく入浴してもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝を強要せず、個々の好きな時間まで起きていただいている。眠れない利用者には一緒にお茶を飲んだり話しを傾聴し眠くなるのを待つ。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書又は看護師の指導にて理解し内服後の服作用に注意し観察している。処方箋を確認目を通す様に1つにまとめている。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者にあった出来る事をやっていただいている。歌・散布・外出・ドライブ・外食等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じる場所に外出する、家族から申し出があればいつでも外出・外泊できるようにしている。家族や職員と買い物やドライブに出かけている。(どんど焼き、文化祭、祭り等)	季節を感じられる場所に多く外出している。家族同伴の外出や外泊も積極的におこなっている。その日その日の希望に添って買い物やドライブも実施している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は家族より預っていない、必要時には家族と連絡をとりいただくようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出があれば電話使用できるようにしている、家族からの電話があれば本人と話しができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビング・ダイニングがあり木造建築であり木の温もりを感じて生活できます。和室がありいつでも横になったりくつろげる様にしている。花や写真を飾り居心地よく生活感と季節感を工夫してだしています。	木のぬくもりのあるダイニング、リビングからオープンキッチンへと広がり清潔感がある。和室(西)には炬燵もあり利用者は思い思いにくつろいでいる。広い窓の外には畑や民家や山々が見渡せ季節を感じることができ、居心地がよい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で横になったり、気の合った利用者同士でテレビを見たり話しができる工夫をしている。ソファを置きいつでも気楽に休めるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れた品物を持参していただき、本人が生活しやすい様にしている。	入居者一人ひとりには自分の使い慣れた家具や品物を個室に持ち込みレイアウトも本人の希望に添っておこなっている。衣類の収納も本人に合わせて工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室に手摺りを設置し、車椅子使用もできるよう広がっている。注意が必要な時は見守りを行ない、出来る事はその方のペースに合わせてやっていただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくりあげている、施設内に提示している。 職員に毎月確認している。	「利用者の皆様と共にくらしをつくりあげます。地域の中で地域の皆様とくらしませす。輪、和、話を大切にします。」を独自の理念として掲げ、施設内に複数掲示され実践につなげている。また毎月1回理念を職員会で確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人と出会えば挨拶や会話をする様に心がけている。近所の方々からお花や野菜をいただく事がありその折には寄っていただきお茶を一緒に飲んで話をしている。	職員は近隣の方々と積極的に接し、会話するよう心がけているので、近隣の方々は野菜や花など持参して訪問してくれる。その際には中に上がってもらい利用者、職員と一緒にお茶を飲みながら交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施していない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出された意見は職員に伝えサービス向上にむけ努力している。	3ヶ月に1回開催と定めている。関係者が全員出席するための調整が難しい時もある。出された意見をもとに職員会などで検討し、サービスの向上にむけ努力している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に出向き担当者と面談し施設での状態を常に報告し助言を受けるように努力している。	管理者や介護支援専門員が、役場に出向いて報告を行ったり助言を受けたりしている。	市町村からの訪問の機会が少ないので、今後は、利用者の暮らしぶりなどを見にきてもらったり利用者との交流が図れるよう、積極的な働きかけを期待します。

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提とし、拘束を必要とする利用者については職員と家族との話し合いで最小限の拘束で安全が保てるようにしている。月1回の拘束解除に向けて検討している。	身体拘束をしないことを共通認識とし、家族とも話し合うようにしている。夜間の防犯以外は施錠もおこなっていない。近隣からも協力をえられており、見守りや連絡してもらえる関係が築かれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会においてどのような物が虐待になっているか再確認をしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加職員にこのような制度があることを知ってもらい職員会を通じて報告している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約時に説明をし本人又家族の意見や希望・不安を言っていただき納得したうえで、サービスの提供となる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が家族の面会時などに意見や不満を言ってもらい、それを運営に反映している、職員に気軽に不満を言える人間関係を不備作れるように努めている。	昨年家族会を発足させ意見や要望などを出してもらっている。また家族が面会に来た際に意見や提案を出してもらえよう職員が家族と面談するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やミーティングなどで個々の意見を言ってもらい反映している。	毎月第4月曜日に職員会を開催し、意見を出し合っている。日々のミーティングにおいても話し合い運営に反映できるよう努めている。	

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各自がどの様になりたいか、ということ聞きその為の目標を作る。個人の労働時間や賃金などに対する要望を可能なだけ聞く。資格を取得すれば賃金が上がる事を伝えている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会に全員が出席するように予定を組み行っている。また、日々の業務の中で出来ない事や苦手なことを聞き、ミーティングや個別相談で目標を作るようにしている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>上伊那圏域グループホーム研修会に参加し勉強会を行っている。(他施設への研修又他施設からの研修受け入れ)訪問活動(傾聴ボランティア等)又は他のグループホームと交流し質の向上に向け努力している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接時に本人から良く聴き受け止めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族との面接時に不安・希望等をしっかりと聴き、受け止め話しを全て聞き入れる気持ちでお話しをし又その為の環境作りもしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族の意見を聞き、本人が必要としている支援を把握しサービスについて説明している。</p>		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、共に過ごしながら人間関係を築き人生の先輩として、教えていただく事、注意していただく事などを大事にし一緒に生活していく努力をしている。職員と利用者が互いに支えあえ一つの事でも助け合ったり喜び合えたりしながら、温もりある生活が出来るように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時、電話連絡時に利用者を支えていけるように家族の気持ちを大切にしながら、より関係が深くなるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の訪問の際には、その方のお部屋でお茶を飲んでいただき話しやすい雰囲気作りに努めている、又来所しやすい場所となるように玄関の雰囲気・職員の対応を考えている。	知人、友人などが気軽に面会ができるよう玄関の雰囲気づくりや職員の対応などに気を配っている。面会の際は利用者の部屋でお茶を飲んでもらうなど配慮している。行きつけの美容院に出向いたり、訪問してもらったりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを尊重し性格や特徴を考え穏やかに日々が過ごせるように、場所や職員の対応を考えている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後いつでも相談や施設にも遊びに来てくださいと話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に生活歴や情報提供書をもとに本人の希望・家族の希望を聴いてケアプランを作成している。日々の会話や行動を把握する事を常に努力している。	利用者の生活歴や情報提供書をもとにケア計画を作成し、日々の本人の会話や行動などから変化を把握し、家族の要望なども聞きながら検討している。	

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人・家族から情報を得る 又ケアマネより今迄の経過等を詳しく聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴の中から、その人個人の有る力を把握するように努めている。一人ひとりに目を配り1日ごとの状態を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞きながら、現状を受け止め又今迄のサービスを参考にしながらカンファレンスで話し合い、本人の希望やなるべく出来る事を取り入れた介護計画書を作成している。	介護計画は現状を把握し、本人、家族の意向を聞きながらカンファレンスで出された職員それぞれの意見を反映させ作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に応じて見直しを行っている、介護記録・連絡帳に記入し情報を共有している。 変化が生じた場合は家族・本人と話し合い見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望又その時の状況に合わせて病院への付き添い又送迎を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域の方々の協力を得て支援している。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態を家族に説明し主治医と相談しながら家族の意見を聞いて適切な医療を受けられるようにしている。協力医療機関(精神科、歯科、リハビリ(接骨医院)診察が受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診は家族と連携し受診支援をおこなっている。協力医療機関から毎月1回往診がある。精神科、歯科、内科、リハビリなどが適切に受診できるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護職員が利用者の健康管理・医療機関と連携している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り合い又見舞いには行き本人が安心できる時間を少しでも多くしている、退院後の変化も考え家族・病院と相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時家族の考えを聞いている又体調に変化があった時、再度話し合い状態の変化に対応している。療養時予後のことをかかりつけ医より家族に直接説明をいただいている。	基本的には終末期対応を行いたい方針であり、開設後2名の看取りをおこなった。入所時に家族の意向を聞いているが、生活している中で体調に変化が見られた場合は再度家族と話したり、かかりつけ医から家族に説明してもらっている。	協力医との連携もよく取れているため終末期対応は事業所の方針を定め今後の重度化に対応されることを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練を行っている。職員間で話し合いや看護師より基本的指導を受けられるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練を全ての利用者と職員で行っている、地域の防災訓練時にも来ていただき又運営推進会議の折防災時の協力体制をお願いする。利用者数(男女の人数)車椅子使用者数、も連絡する。	昨年の運営推進会議で役場から避難訓練は年2回実施するよう指摘を受けたので今年度は2回実施した。地域の防災訓練にも参加し協力を得られた。	職員全員で避難訓練が行われている。また地域からも協力を得られているが今後も引き続き協力を仰ぐと共に夜間想定訓練を行うなどして避難方法を全職員が身につけることを期待します。

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大事にし、その時々に応じた対応をしている、個人情報の秘密厳守を職員会等で徹底している。	場面場面でプライバシーを守るようにしている。また、対応時に目に付いたことはその都度管理者が職員にそっと注意をしている。	プライバシーについては理解されているが、職員全員に徹底するためにマニュアル作成が望まれ、研修の実施に期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を大切にし『はい、いいえ』とならない言葉がけに気を配る。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムで生活出来るように心がけている。希望・要望のある時は極力それに沿うように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望があればお店に送迎する又美容師さんにきていただいている。職員の理美容もおこなっている。なるべく本人の好みの洋服を自分で選んで着ていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備盛り付けを職員と一緒にいたり、献立作りを相談したり、味付けの手伝いをしていたり好みの物を用いて食事に反映している。	食事の準備、盛り付け、片付けは職員と利用者が一緒におこなっている。また献立を一緒に考えてもらったり、好みや味付けを反映させている。また外食も計画的に実施している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量を確認し少ないと感じたら声かけを行う、又その方の好物で代替を行う、3回の食事時2回のお茶には水分摂取をしている、又牛乳やヤクルト等も好みで摂取している。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを行っている。入れ歯の洗浄と消毒。歯科医師の往診依頼。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時のトイレ・ポータブルへの声かけ誘導をし気持ちよく排泄出来る様支援している。失禁は素早く衣類交換し汚れた衣類で過ごすことのないようにしている。	一人ひとりに合わせてトイレやポータブルトイレへの声かけ誘導を行い気持ちよく排泄できるよう支援をしている。また汚れ物はすばやく衣類交換し清潔保持につとめている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩に出かけ体を動かす様にしている。食事には野菜を多く使用し3食とも汁物をつけている、又水分・果物・乳製品も多く摂るように心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添った入浴が出来る様に支援している。	本人の希望に併せて入浴している。中には毎日入浴されている利用者もいる。本人の介護度にあわせた支援体制を組み安全に気持ちよく入浴してもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝を強要せず個々の時間に合わせている。眠れない利用者には話を聞いたりお茶を飲んだり眠くなるのを待つ。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書又は看護師の指導にて理解し内服後の服作用に注意し観察している。処方箋を確認目を通す様に1つにまとめている。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者さんにとって出来る事としていただいている。唄・ドライブ・散歩・外食等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望又は職員の声かけで散歩に出かけるように支援している。家族や職員と買い物やドライブにでかける(地域の行事など)。季節を感じる場所に出かける、家族との外出・外食ができる様に支援している。	季節を感じられる場所に多く外出している。家族同伴の外出や外泊も積極的におこなっている。その日その日の希望に添って買い物やドライブも実施している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預っていない。必要な時は家族と連絡を取りその都度いただくようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいと言えば使用してもらっている。家族からの電話があれば本人と話しのできる様に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビング・ダイニングがあり畳の居室もあります。東南にははき出しで大きな窓が開いております。見渡しも良く四季の移ろいを感じる事が出来ます。木造建築のため木の温もりが感じられます。	木のぬくもりのあるダイニング、リビングからオープンキッチンへと広がり清潔感がある。和室(西)には炬燵もあり利用者は思い思いにくつろいでいる。広い窓の外には畑や民家や山々が見渡せ季節を感じることができ、居心地がよい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子で一緒にテレビを見たり、ソファーにて横になって休めるようにとその場所場所の空間を大事にしている。		

外部評価結果(グループホーム道)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたもの(ベットやタンス)などを持ってきていただくようにしている。本人が希望するように部屋をセットする。	入居者一人ひとは自分の使い慣れた家具や品物を個室に持ち込みレイアウトも本人の希望に添っておこなっている。衣類の収納も本人に合わせて工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手摺りを設置してある、すべてに段差のない作りになっている。注意が必要な時は見守りを行い出来る事は時間がかかってもその方のペースでやっていただいている。		